内

竹内 雄二 Takeuchi Yuji

1966年、愛知県生まれ。書籍の装丁、およ び本文頁設計のデザイナーとして、特にビジ ネス書を中心に活躍する。

改訂版教科書ではAdvanced, Standard, Select, Essenceシリーズの装丁を手掛ける。



竹内さんが装丁を手掛けた書籍 (一部)

ザ つ イ 7 ン は 61 集合 方 が 知 絶 で 対 17 Advanced 17

普段はどういった本の装丁をさ れていますか?

私はこれまで、ビジネス書やビジネ ススクールのテキストの装丁を数多く 手掛けてきました。デザイン的には"信 頼"と"品格"が求められる分野です。

今回は, そんな私を教科書に起用し たら面白いんじゃないか、という意図 を感じました。教科書も"信頼"と "品格"が求められるという点は、こ れまでの仕事と通底していますね。

今回の教科書の装丁は、どのような 方向性でデザインされましたか?

本をデザインするときは、やはり読 者の立場に立って考えます。教科書で すから高校生が使うわけですが, 高校 生の感性は大人と変わりません。その ため, 大人の鑑賞にも耐えるような "シンプルで格好いい, けど遊びも少 し感じさせる"デザインを目指しまし た。これは、編集部の要望とも一致し ていました。

Advanced Standard Select Essence

書体から各シリーズの性格が感じられる。

そうなると、従来の"数学の教科 書っぽさ"を抑えたデザインになりま すが、やっぱり数学の教科書だと感じ られるバランスも必要です。

一般書にはビジネス教養というジャ ンルがありますが, 例えば日本庭園を テーマにしたビジネス教養の本をデザ インするとき,装丁を庭園っぽくしす ぎると「園芸」の棚に置かれてしまい ます。どんなテーマであっても、ビジ ネス書の様式を外してはいけないんで す。それと同じですね。

デザインをされるうえで、特に 難しかった点は何ですか?

今回, 『Advanced』, 『Standard』, 『Select』、『Essence』という難度別 の4つのシリーズの装丁をデザインし ました。そこで心掛けたのは、シリー ズの間にデザイン性の差をつけないよ うにすることでした。内容の難度が下 がると、伴って幼い印象にされてしま うことが往々にしてあるのですが、数 学の得手不得手と精神年齢は無関係の はずです。

音楽においても,ブルース,ロック, フュージョン, ジャズの順に, 使われる 音楽理論は複雑化していきます。しかし ながら、いずれのジャンルも依然として 素晴らしさを持ち合わせています。格好 よさにヒエラルキーはありませんね。

装丁においても、4つのシリーズの

アイデンティティを明確にしながら、 それぞれをクールな存在とすることを 目指しました。それが実現できたと自 信を持って言えます。

今回の装丁における"こだわり" について教えてください。

今回は、シリーズタイトルのアルファ ベットをデザインの主役にしています。 そのタイポグラフィは2000以上の候補 から選りすぐりました。結果的に採用さ れたのは、どれも教科書にふさわしい オーソドックスな書体でした。

それらの書体をベースに、いずれも わずかながら私が手を加えることで, 今の形になっています。そこにデザイ ナーの個性が表れます。本来、書体は 計算され尽くしてつくられているもの ですので、ちょっと変えるぐらいが、 品格もあって飽きずに長持ちします。

各シリーズの4つのタイトルデザイ ンは、それぞれ性格が表れて特徴的 で、とても愛着を感じています。

色も重要です。一般書は、書店で平 積みされたときに目立つよう、"色の かたまり"として存在感を出します。 色で本を覚えてもらうわけです。同じ ように、教科書も印象的な色にこだわ りました。

そのために、身の回りの"いい色" をいつも集めています。これまでも 実際に, 街中で見かけたヘアワック

スの容器の色やヘッドフォンの色 が、表紙のメインカラーになったこ ともあります。

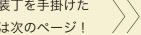
今回は, 好評だった前々版の教科 書を継承する意図で、『Standard』 に鉄紺色を使用したいという編集部 の要望がありました。そのため、鉄 紺色を軸にして他のシリーズの色も 決めていきました。4シリーズ全体 で、明るさと鮮やかさがの高低が、 内容の難度の高低と反比例するよう に設計しています。

よいデザインを生み出す秘訣は なんですか?

「デザイナーはコントロールされた くない」と思われがちですが、デザイ ナーひとりで考えることには限界があ ります。例えば今回も, 生徒や先生の 使い勝手を考えて背表紙を工夫すると いった発想は、私からは出てき得ませ ん。編集部と密にブラッシュアップを 重ねた結果です。

なので、デザインは集合知でつくっ ていく方が絶対にいい。自分がよいと 思ったものから、さらによくなる最後 のもうひと搾りがあるんです。

竹内さんが装丁を手掛けた 改訂教科書は次のページ!





好評だった平成29年度版の『Standard』



モニター上と実際の印刷では色が異なるので、都度確認しながら色の調整を慎重に進める。